

## 序論

浦和 茂彦<sup>\*1</sup>・高橋 昌也<sup>\*1\*2</sup>

## Preface

Shigehiko URAWA<sup>\*1</sup> and Masaya TAKAHASHI<sup>\*1\*2</sup>

サケ (*Oncorhynchus keta*) にとって日本は分布の南限域であり, その生息環境は日本海, オホーツク海や太平洋沿岸の地域間で大きく異なり多様である。日本系サケは7地域個体群 (オホーツク, 北海道日本海, 根室, えりも以東, えりも以西, 本州太平洋, 本州日本海) に分かれることが, アロザイムやマイクロサテライトDNAによる集団遺伝学的解析により示されている (Beacham *et al.*, 2008, 佐藤・浦和, 2015)。各地域個体群は生息環境に対応した多様な生物特性を有することが想定され, こうした地域個体群の保全がサケ資源の安定的維持と利用に重要と考えられる。サケ属魚類の保全管理方策を検討する基礎データとして, 北米では各魚種について地域個体群毎に生物特性等がレビューされ, ステータス・レポートとして出版されている (例えば, サケについてはJohnson *et al.*, 1997)。しかし, 日本ではそのような総括的レビューが行われていないため, 地域個体群の特性が十分には理解されていない。

日本系サケ資源は, その多くが人工ふ化放流により維持されている。しかし, 不適切なふ化放流が行われると, 地域個体群の持つ特性が失われ, 将来にわたり資源を利用する上で大きな損失となる可能性がある。そのため, 各地域個体群の持つ特性を正しく理解し, これらを保全することの重要性を認識する必要がある。

このステータス・レポート「日本系サケ地域個体群の増殖と生物特性」は, 水産総合研究センターが収集したモニタリングデータや既知の情報を基に, 日本系サケの遺伝的特性, 増殖, 生息環境や資源動態について地域間で比較し, 各地域個体群の増殖実態, 生息環境や生物特性を明らかにすることを目的とする。

## 文献

Beacham T. D., Sato S., Urawa S., Le K. D., and Wetklo M., 2008: Population structure and stock identification of chum salmon *Oncorhynchus keta* from Japan determined by microsatellite DNA variation. *Fish. Sci.*, **74**, 983-994.

Johnson O. W., Grant W. S., Kope R. G., Neely K.,

Waknitz F. W., and Waples R. S., 1997: Status review of chum salmon from Washington, Oregon, and California. U.S. Dep. Commerce, NOAA Tech. Memo. NMFS-NWFSC No. 32.

佐藤俊平, 浦和茂彦, 2015: 日本系サケの遺伝的個体群構造. 水産総合研究センター研究報告, **39**, 21-47.

2014年11月14日受理 (Received on November 14, 2014)

<sup>\*1</sup> 独立行政法人水産総合研究センター北海道水産研究所 〒062-0922 札幌市豊平区中の島2条2丁目 (Hokkaido National Fisheries Research Institute, Fisheries Research Agency, 2-2 Nakanoshima, Toyohira-ku, Sapporo 062-0922, Japan)

<sup>\*2</sup> 現所属: 水産庁増殖推進部研究指導課 〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 (Fisheries Agency of Japan, 1-2-1 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8907, Japan)